障がいのある人が

# 特集 自分らしく輝ける社会に

人にはさまざまな違いがあり、それらを受け入れ・助け合うことで、「自分らしく輝く」ことができます。
今回は、障がいのある人が社会活動に参加できるように支援を行う市内の事業所を２つ紹介し、私たちにできることを考えていきます。

問 障がい福祉課 TEL (31)3711・FAX (31)3738

NPO 法人
## ひびき
（訪問介護・放課後等デイサービス・生活介護）

Instagram　ホームページ

お問い合わせ
TEL (43)1963・FAX 050(1404)4197
〒523-0016　千僧供町 357

## みんなが笑って過ごせるように

千僧供町にある多機能事務所の「ひびき」。生活介護のほかに、放課後等デイサービスや居宅介護も行い、子どもから大人までいろいろな人の支援を、家族で経営しながら行っています。今回は、代表の渡辺麗子さんにお話を伺いました。

### 毎日「感謝」の連続

「土地も設備も、何もないところからスタートしましたので、仕事があれば何でもするという気持ちで、みんな精一杯働いています」

渡辺さんが60歳の定年を迎えたときに、旦那さんと一緒に『ひびき』を設立。『皆さんに覚えてもらえるように・響きあい、成長できるように』との思いが込められています。

最初は1対1の支援でしたが、放課後デイサービスに加え、子どもたちを見続けたいとの思いも芽生え、生活介護も始められました。

「日々元気でいられるのは手伝ってくれる家族や、スタッフの皆さんを始め、サポートしてくださる皆さんのおかげです。やり始めたからには、やり続けたいですね」

多機能事務所ひびき
代表 渡辺麗子さん（中央）とその家族



### 「言葉」にならない「声」をくみ取ることで

「ひびきに来てもらい、1日笑顔で過ごし『ここにきて良かった』と思ってもらうことが一番うれしい事ですね」

大切にされていることは、胸の中にはあるけれど、言葉では表せられない『声』、そこに含まれる『思い』をくみ取ること。毎日まんべんなく声をかけ、何をしてほしいかを考え、観察しながら接するようにされています。

「体調や気分の変化は日々、皆さんにありますので、元気に過ごしてもらうと、ほっとします。昨日までできなかったことが、少しずつできるようになっていく成長が、毎日の楽しみですね」と普段の生活を振り返ります。

生活介護では仕事中心のA班と、軽作業中心のB班に分けて、作業を行われています。普段の仕事内容は、シール貼りやスプーン・フォークの袋詰め作業です。

### 自分を表現できる機会をつくってあげたい

「障がいのある人は声や動きで自分を表現しています。接する機会がないと、そうした表現を『怖い』と感じることもあると思います。皆さんに受け入れてもらうことは、最初は難しいかもしれませんが、仕事や生活の中で徐々に認めてもらえればうれしいです。イベントの開催も、やってみたいですね」

最近は、地域の人とのかかわりも増え、散歩中に声をかけてもらったり、地蔵盆や祭りなどに参加する機会も増えているようです。

## ひびきで過ごす時間

生活介護では、食事介助などの支援や「ひびき畑」での野菜づくり・クッキングなど、日常生活の維持と向上を目標に活動しています。また、「多機能事務所」をいかし、放課後等デイサービスの子どもたちとの交流も活発に行います。

**活動メニュー**
- お仕事
- ウォーキング
- 畑での野菜づくり
- オリジナル工作
- 月１回のお出かけ

など

Pick Up

## ひと工夫で、ほっとできる場所づくり

### お仕事は自分たちのペースで

お仕事にノルマは設けず、その日の調子に合わせて行います。作業中は一人で集中できるようにスペースを確保。休憩時間はスタッフも交えてカードゲームで交流もします。

### お昼ご飯は必ず手作りを

「温かいご飯を一緒に食べる」ため、スタッフが、毎日昼食を手作りしています。食材には、ひびき畑などで採れた地元の野菜を使っています。

NPO 法人まぶね

# ふれあい工房

（就労継続支援 B 型・生活介護）

お問い合わせ
TEL (34)3034・FAX (34)2017
〒523-0037　東町 647-1

## いきいきと一緒に楽しく働く

次は東町にある「ふれあい工房」です。今年の4月に、新しい作業所に移転しました。ここでは、部品の下請け作業や、猫じゃらし製作のほか、オリジナルバルーンを製作し、就労支援を行っています。今回は、施設長の西妙子さんにお話を伺いました。

### 誰かと一緒に作業する喜びを感じてもらいたい

「仕事を通じ、さまざまな考えがあることを知ってもらいたいですね。仕事中もにぎやかなのが、ここの特徴です」

ふれあい工房では、障がいの重さに関係なく、ワンフロアで作業されています。老若男女さまざまな人とコミュニケーションがとれ、いつも話題が尽きません。

### 長く・直接関わる

もともと高齢者の介護や市の施設で支援を行っていた西さん。『もっと長く、直接皆さんと付き合っていきたい』との思いから、施設長になりました。

「毎日利用者さんと話や作業をするため、目に見えた変化を感じられることが今の楽しみです。社会復帰の手伝いにもなり、仕事をすることの喜びを感じてもらえていればと思います」

仕事は、梱包・仕分け作業、農福連携に取り組んでいるブドウ園の手伝いなど、10社からさまざまな依頼があり、気分や体調に合わせてできるようです。

### 空間を作ることで、心にも余裕が生まれる

最初は、古民家やコミュニティセンターを利用されていましたが、今年の4月に「ふれあい工房」としての作業所を開設。新しくなった作業所は、一部屋がより広くなり、みんなで一緒に作業ができるようになりました。

「新しい作業所ができて、利用者さんとの交流が増えました。環境が変わる不安もありましたが、皆さんすぐに受け入れてくれて、喜んでいる人が多いため、本当によかったと思います」

これからは、コロナ禍や引っ越しで手つかずになっていた、イベントや地域の人との交流も再開予定のようです。

「少し落ち着いてきたので、皆さんとの交流を通して、作業所のメンバーがさらにいろいろな考えに気づくきっかけを作ることができればうれしいですね」

NPO 法人まぶね　ふれあい工房
施設長　西 妙子さん



## 私たちの工房を紹介します

スタッフが近くにいてくれるので、安心♪

作業量が多いものはみんなで分担・協力！

細かい作業はミスがないように集中…👀

スタッフさんとは、雑談もします。話し過ぎでたまに注意されることも（笑）

大きな窓があるワンフロアで、
リラックスしながら作業しています

このほか、段ボール作りや草刈りなど、体力が必要な仕事もあります！

### 毎日違う仕事ができ、とても楽しいです♪

この工房では、19 歳から 76 歳まで幅広い世代の人が一緒に働いています。作業自体は難しいこともありますが、職員さんを始め、みんなで自由に話しながら仕事ができます。笑いがたえない工房で、仕事をするのが楽しいです！

## 笑顔がうまれる声掛けを

障がいのある人への向き合い方は１対１で関わることや、みんなで交流することなど人それぞれです。しかし共通していることも。それは「毎日少しずつでも話をして、その人の思いを聞くことで、互いに『笑顔』がうまれる」ということ。皆さんも、あいさつから始めてみませんか？

### イベント　ふくふくフェスタ 開催

日時　12月7日（土曜日）

場所　ひまわり館

今年も、物販からステージ発表までイベント盛りだくさんです。皆さんと交流できるチャンスですので、ぜひお越しください。

展示・物販など 10:00 ～

ステージ発表 13:00 ～

● 詳しくは市ホームページで➡HP 19915